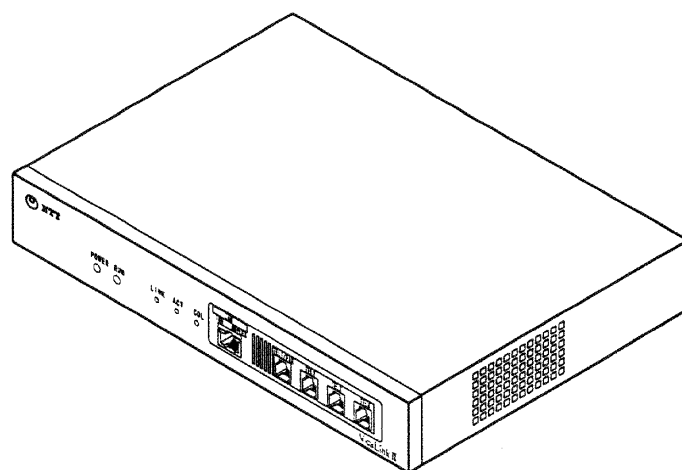
VocaLink Ⅱ - テレホンアダプタ
取扱説明書

このたびは、VocaLink Ⅱ - テレホンアダプタをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

- ご使用の前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
- お読みになったあとも、本商品のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本商品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店でお求めください。

本書中のマーク説明

マーク	説明
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
STOP お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。
お知らせ	この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
ワンポイント	この表示は、本商品を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

ご使用にあたってのお願い

外線へ電話をおかけになる際に、市外局番＋市内局番＋加入者番号（03-××××-××××など）以外の電話番号および110番などの“1××”で始まる3桁の局番無しの電話番号へ発信する場合、VocaLink Ⅱ-ISDNゲートウェイの設定によっては、相手先にかからない場合があります。これらの電話番号への通話は、VocaLink Ⅱシステム以外の通常の電話を必ずご利用ください。
これらの電話番号の詳細については、VocaLink Ⅱ-ISDN ゲートウェイ取扱説明書をご覧ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

●ご使用の際は取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
●本商品の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.
●本商品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信等の機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
●本商品を分解したり改造したりすることは、法律で禁止されていますので、絶対に行わないでください。
●本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、当社のサービス取扱所へお申しつけください。
●本書の中に掲載されている表示画面は、実際のものとは若干異なることがありますので、あらかじめご了承ください。
●この取扱説明書、ハードウェア、ソフトウェア、および外観の内容について将来予告なしに変更することがあります。
●本書の内容の一部または全部を無断転載、無断複写することは禁止されています。

⚠警告

●万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認して、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客さまによる修理は危険ですから絶対におやめください。

●万一、本装置を落としたり、キャビネットを破損した場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となることがあります。

●万一、内部に水などが入ったり、本装置をぬらした場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となることがあります。

●本装置の内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となることがあります。

●本装置を分解・改造したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。また、改造は法律で禁じられています。

●本装置のカバーを外さないでください。感電の原因となることがあります。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、当社のサービス取扱所にご連絡ください。

●異常音がしたり、本装置が熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

●本装置のそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となることがあります。

●ふろ場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは設置および使用しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

●AC100Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

⚠警告

- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電・故障の原因となることがあります。電源コードが傷んだら、電源プラグをコンセントから抜き、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

- テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

- お客さまがご用意された機器を本装置に接続してお使いになる場合は、当該機器が本装置のインタフェースに適合することをご確認ください。確認できない場合は、絶対に接続して使用しないでください。不正な機器を接続した場合、火災・感電・故障の原因となることがあります。なお、機器の適合性についてご不明の場合は、当社のサービス取扱所にご連絡ください。

- 本装置を移動させる場合は、電源プラグをコンセントから抜き、電話機コードを差込口から抜いて、外部の接続線を外したことを確認のうえ、行ってください。コードが傷つき、火災・感電・故障の原因となることがあります。

- 万一、漏電した場合の感電事故防止のため、必ずアース線を取り付けてください。また、アースをガス管に接続しないでください。爆発の原因となることがあります。

- 電源プラグを電源コンセント（AC100V）に差し込むときは、確実に差し込んでください。電源プラグの刃に金属などが触れると、火災・感電の原因となることがあります。

- 電源プラグをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグの本体を持って抜いてください。電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

- 電源プラグは、ほこりが付着していないことを確認してからコンセントに差し込んでください。また、半年から１年に１回は、電源プラグを点検してください。ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。なお、点検に関しては当社のサービス取扱所にご相談ください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

お使いになる前に（設置環境）

⚠注意

- 本装置底面にはゴム製のすべり止めを使用していますので、ゴムとの接触面が、まれに変色するおそれがあります。
- 直射日光の当たるところや、ストーブ、ヒータなどの発熱器のそばなど、温度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。
- 調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所、鉄粉や有毒ガスが発生する場所に置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本装置の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。
- 振動・衝撃の多い場所に置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

お使いのとき

⚠注意

- 近くに雷が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてご使用を控えてください。落雷によって、火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 本装置や電源コードを熱器具に近づけないでください。本装置や電源コードの被覆が溶けて、火災・感電・故障の原因となることがあります。
- 本装置の内部に熱がこもり、火災の原因となることがありますので、次のような使い方はしないでください。
  - じゅうたんや布団の上に置く。
  - テーブルクロスなどをかける。
  - 本棚、タンスの中、押入れの中など風通しの悪い場所に置く。
  - さかさまに置く。
  - 横に置く。

⚠注意

- 長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源コードには、延長コードは使わないでください。火災の原因となることがあります。
- お手入れをするときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

取り扱いについて

お願い

- ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。本装置の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。
- 落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。

置き場所について

お願い

- 製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本装置が正常に動作しないことがあります。
- 電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、ワープロ、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。
  - 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音等が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
  - テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
  - テレビ、ラジオなどに近づけると、スピーカより雑音が出る場合があります。
  - 放送局や無線局などが近く、雑音等が大きいときは、本装置の設置場所を移動してみてください。電波が強すぎる場合は、本装置が使用できないことがあります。
- 硫化水素が発生する場所（温泉地）などでは、本装置の寿命が短くなることがあります。
- 本装置を積み重ねて使用しないでください。本装置を２台以上使用する場合、積み重ねて設置すると内部に熱がこもり、本装置の表面が熱くなることがあります。

この取扱説明書の見方

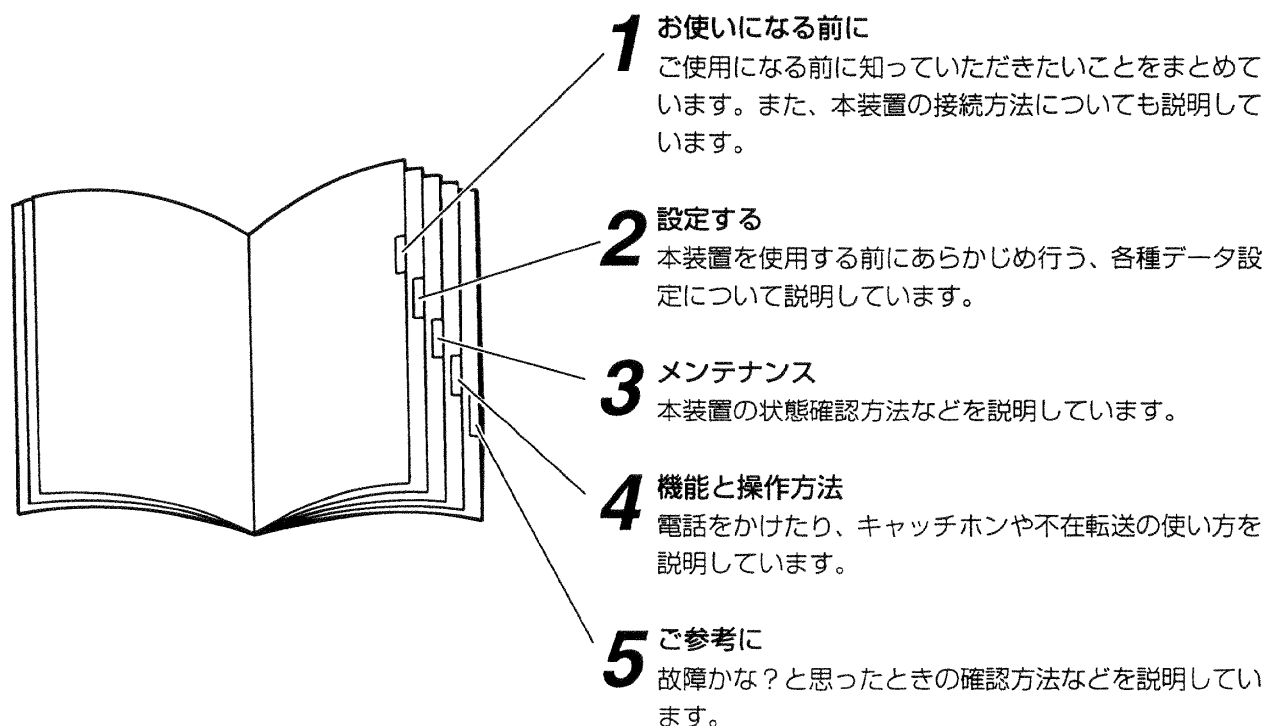
この取扱説明書の構成

1 お使いになる前に
ご使用になる前に知っていただきたいことをまとめています。また、本装置の接続方法についても説明しています。

2 設定する
本装置を使用する前にあらかじめ行う、各種データ設定について説明しています。

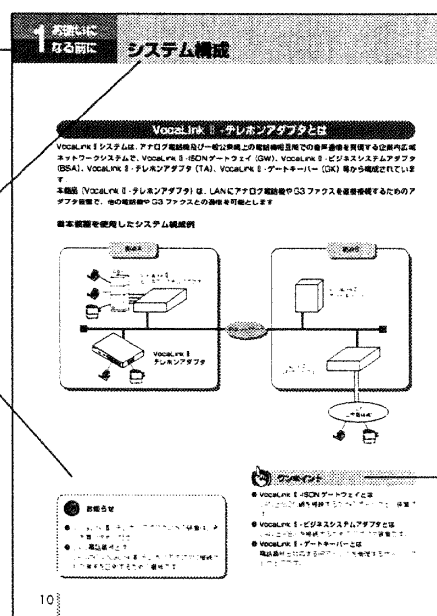
3 メンテナンス
本装置の状態確認方法などを説明しています。

4 機能と操作方法
電話をかけたり、キャッチホンや不在転送の使い方を説明しています。

5 ご参考に
故障かな？と思ったときの確認方法などを説明しています。

ページの構成

章タイトル
章ごとにタイトルが付けられています。

タイトル
目的ごとにタイトルが付けられています。

お願いまたはお知らせ
<お願い>
この表示を無視して、誤った取り扱いをした場合、本商品の本来の性能を発揮できなかったり、機能停止を招く内容を示しています。
<お知らせ>
この表示は、本商品を取り扱ううえでの注意事項を示しています。

ワンポイント
知っておくと便利な事項、操作へのアドバイスなどの補足説明をしています。

目次

システム構成

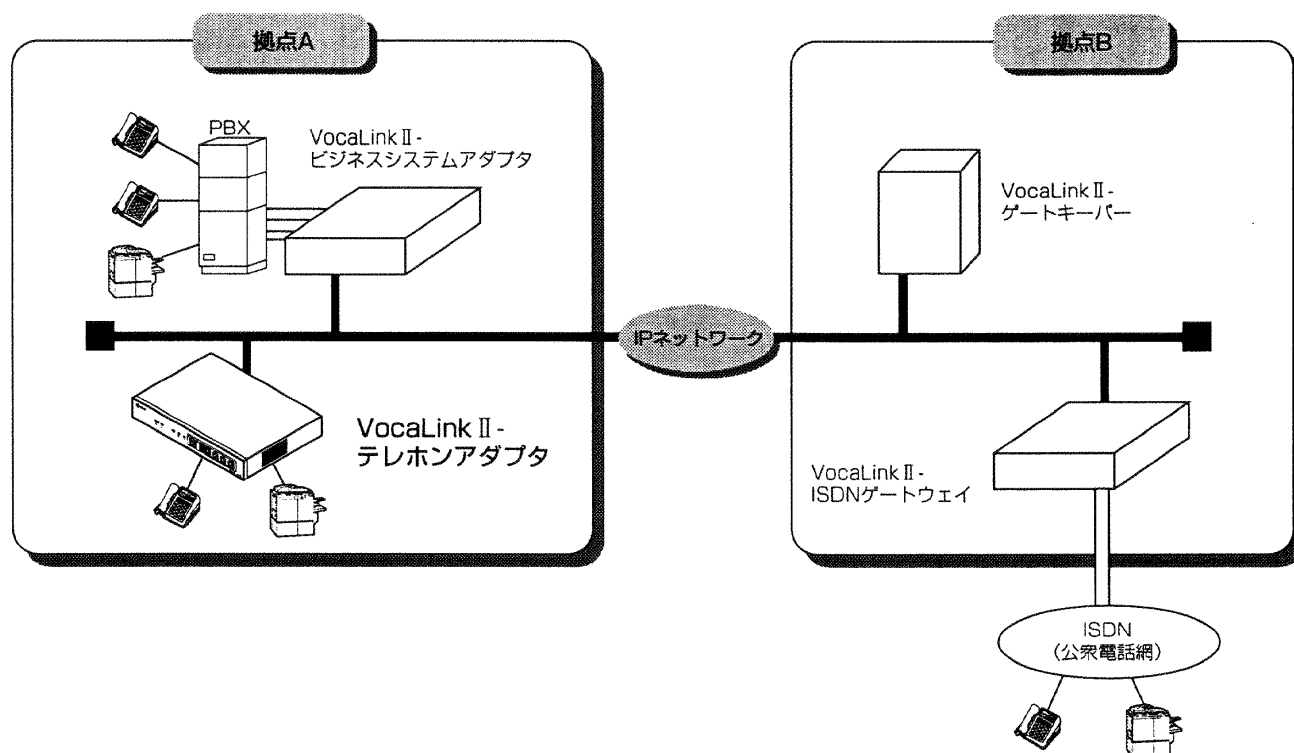
VocaLink Ⅱ-テレホンアダプタとは

VocaLinkⅡシステムは、アナログ電話機及び一般公衆網上の電話機相互間での音声通信を実現する企業内広域ネットワークシステムで、VocaLink Ⅱ-ISDNゲートウェイ（GW)、VocaLink Ⅱ-ビジネスシステムアダプタ(BSA)、VocaLink Ⅱ-テレホンアダプタ（TA)、VocaLink Ⅱ-ゲートキーパー（GK）等から構成されています。

本商品（VocaLink Ⅱ-テレホンアダプタ）は、LANにアナログ電話機やG3ファクスを直接接続するためのアダプタ装置で、他の電話機やG3ファクスとの通信を可能とします。

■本装置を使用したシステム構成例

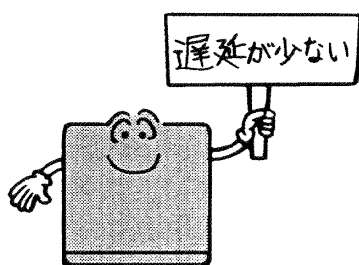
ワンポイント

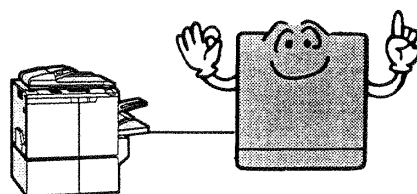
- **VocaLink Ⅱ-ISDNゲートウェイとは**
  LANとISDN網を接続するためのゲートウェイ装置です。
- **VocaLink Ⅱ-ビジネスシステムアダプタとは**
  LANとPBXを接続するためのアダプタ装置です。
- **VocaLink Ⅱ-ゲートキーパーとは**
  電話番号と対応するIPアドレスを管理するサーバソフトウェアです。

お知らせ

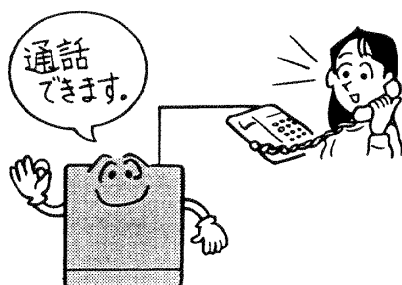
- VocaLink Ⅱ-テレホンアダプタ以外の装置は、別にお買い求めください。
- LAN電話番号とは
  LAN内のVocaLinkⅡ-テレホンアダプタに接続された端末を区別するための番号です。

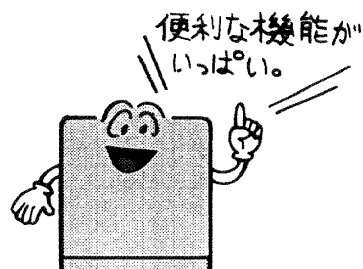
特　長

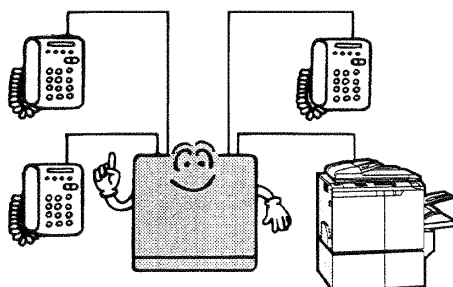
少ない遅延量

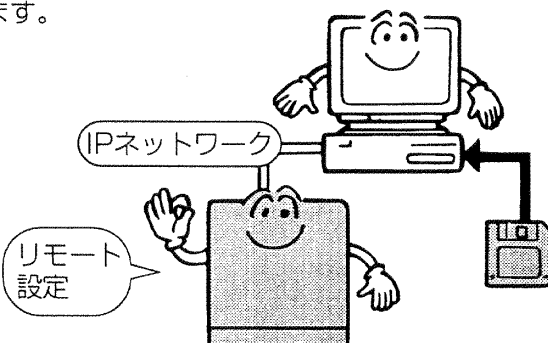
装置による遅延がほとんどありません。
ただし、LAN 回線の混雑などによる遅延は除きます。

リアルタイムインターネットFAXを実現

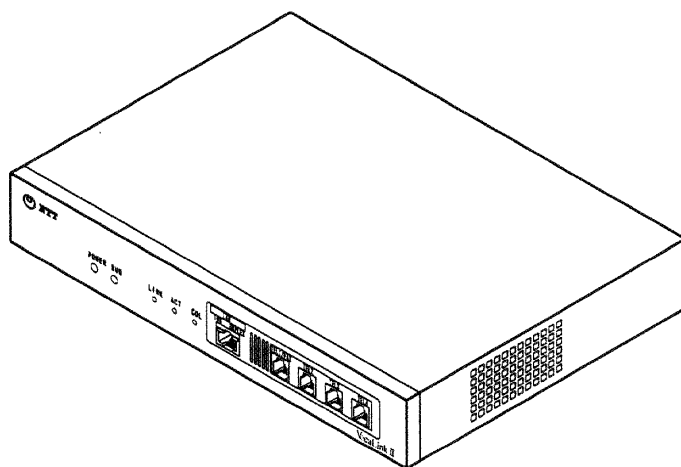
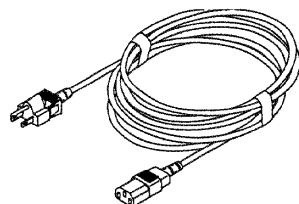
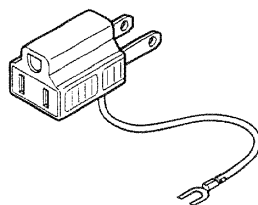
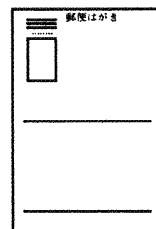
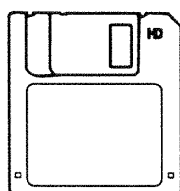
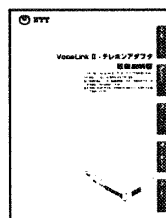
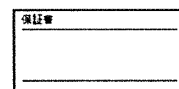
標準に準拠し、LAN 上でのリアルタイムのファクス通信を実現しています。
ネットワークからの影響を最小限にするような工夫をしています。

従来の電話やファクスと同様の操作

アナログ電話機とG3ファクスを接続しますので、通常の操作で通話やファクス通信ができます。

豊富なシステム機能

VocaLink Ⅱ - ゲートキーパーとの連動により、キャッチホン機能、転送機能、不在転送機能、内線代表機能が使用できます。操作はアナログ電話機のフッキングなどの操作と同じです。

4本のアナログポートを収容

4台のアナログ電話機または3台のアナログ電話機と1台のG3ファクスを接続できますので、本装置で4つの通話または3つの通話とファクス通信が同時にできます。

簡単な環境設定

専用のコンソールソフトを使用することによって、LAN 上のパソコンや本装置に接続したパソコンから各種設定をメニュー方式で簡単に行うことができます。

セットを確認してください

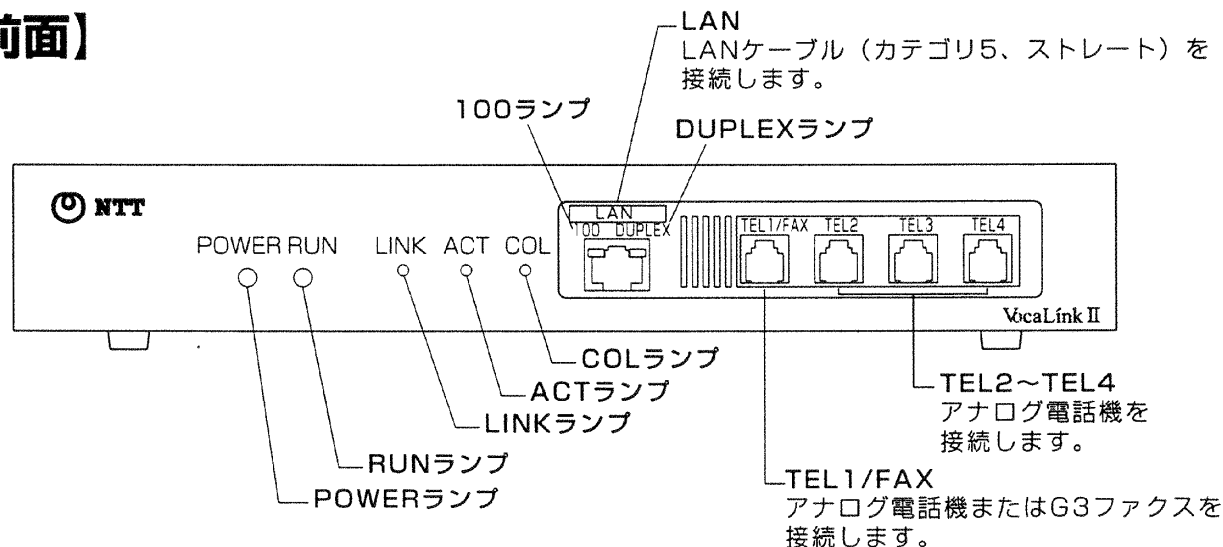
■本体

■付属品

電源コード(1本)

変換プラグ(1個)

アンケートハガキ(1枚)

フロッピーディスク(3枚)
(VocaLink Ⅱ - テレホンアダプタ
設定用コンソールソフト)

取扱説明書(1部)

保証書(1枚)

■お客さまで用意していただくもの

- 電話機コード(本装置とアナログ電話機および G3 ファクスを接続するために必要です)
- LAN ケーブル(カテゴリ 5 、ストレート)
- 設定用パソコン(Windows®95、Windows®98 または Windows NT®4.0 インストール済みのもの)

- セットに足りないものがあったり、取扱説明書に乱丁・落丁などがあった場合は、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へご連絡ください。

各部の名前

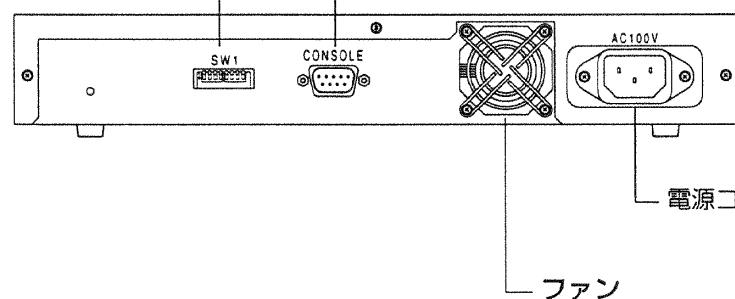
【前面】

ランプの種類	ランプのつき方	VocaLink II-テレホンアダプタの状態
POWERランプ	緑点灯	電源が入っている状態です。
RUNランプ	橙点灯	電源投入し、初期化中の状態です。 初期化が終わると設定されているモードによって以下のように変化します。
	緑点灯	運用モードです。
	橙点滅	設定モードです。
	緑点滅	インストールモードです。
	赤点灯	障害を検出した状態です。すみやかに電源をおとしてください。
LINKランプ	緑点灯	LANのリンクがはれており、通信可能な状態です。
ACTランプ	緑点滅	LANの通信を行っている状態です。
COLランプ	黄点滅	LANのコリジョンが発生した状態です。
LANコネクタ上の100ランプ	緑点灯	接続されているLAN環境が100 BASEです。 消灯時は10 BASEです。
LANコネクタ上のDUPLEXランプ	橙点灯	接続されているLAN環境が全二重モードです。 消灯時は半二重モードです。

ワンポイント

- コリジョンとは、ＬＡＮ上にパケットを送信しようとした時に、同一ＬＡＮ上の別の端末が同時にパケットを送信したために発生したパケットの衝突のことです。
- 電源投入した時にLINKランプ、ACTランプ、COLランプ、LANコネクタ上の100ランプ、DUPLEXランプが一瞬点灯することがありますが、異常ではありません。

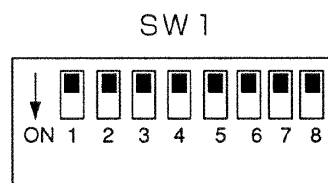
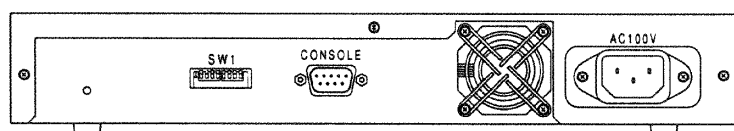
各部の名前

【背面】

SW1
動作モードを設定する８ビットのディップスイッチです。
初期状態から変更する必要はありません。
CONSOLE
コンソールソフトを使用した設定用パソコンとの接続のためのシリアルポートです。
９ピンのRS-232Cケーブルを接続します。
SW1
CONSOLE
AC100V
電源コードを接続します。
ファン

ディップスイッチの設定

本装置の背面にはディップスイッチがあり、その設定について説明します。

ディップスイッチ（SW1）の設定

ＳＷ１は本装置の動作モードを設定するスイッチです。
初期状態から変更する必要はありません。

お知らせ

● ディップスイッチの各ビットの設定内容について、説明します。

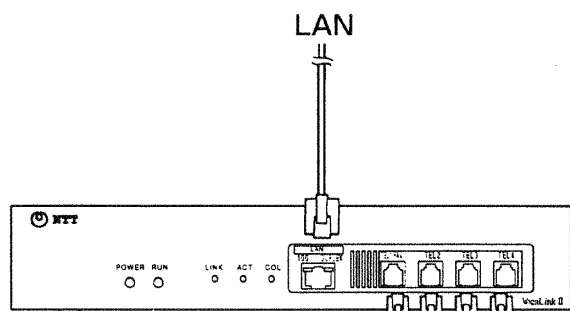
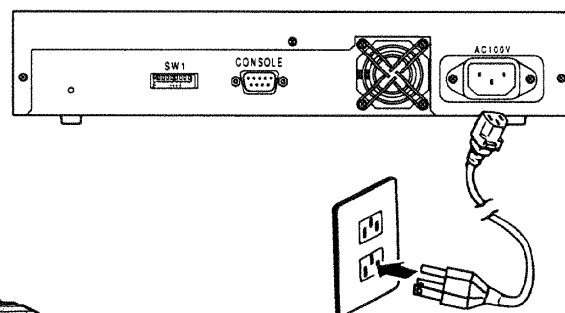
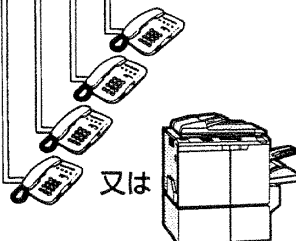
ビット	内　容	ON	OFF	備　考
1	モード設定	（ビット1, ビット2） （OFF, OFF）運用モード （OFF, ON）設定モード （ON, OFF）インストールモード （ON, ON）テストモード		運用時はOFF
2				運用時はOFF
3	RAMチェック	なし	あり	運用時はOFF
4	(Reserved)	—	—	必ずOFF
5	(Reserved)	—	—	必ずOFF
6	(Reserved)	—	—	必ずOFF
7	テスト1	連続テスト 実行する	連続テスト 実行しない	必ずOFF
8	テスト2	テスト実行する	テスト実行しない	必ずOFF

- ビット1、2：　ディップスイッチでのモード設定は通常行いません。必ずOFFで運用してください。通常はモード設定はコンソールソフトから行います。
- ビット3：　RAMチェックは通常動作時には必ずOFF（あり）で運用してください。
- ビット4〜6：　使用しません。通常動作時には必ずOFFで運用してください。
- ビット7、8：　テスト実行は通常動作時には必ずOFF（なし）で運用してください。

● ディップスイッチのビットは、下がON, 上がOFFです。
● 工場出荷時は、すべてのビットがOFFになっています。

接続します

接続の手順

1. 本装置の「LAN」とLANの間をLANケーブル（カテゴリ5、ストレート）で接続します。

2. アナログ電話機またはG3ファクスを電話機コードで「TEL1/FAX」に接続します。
アナログ電話機を電話機コードで「TEL2～TEL4」に接続します。

3. 電源コードを本体に接続し、電源プラグをコンセント（AC100V）に差し込みます。

お願い

- 機器の接続に使用するケーブル類は、機器に付属のものを使うか、接続する機器に適合したものを使用してください。
- 接続するときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。
- コンセントが2極の場合は変換プラグ（付属品）をお使いください。
必ず変換プラグのアースは接地してください。

お知らせ

- 設定用パソコンをローカル接続する場合は「CONSOLE」とパソコンの間をRS-232Cケーブル（クロス）で接続します。
接続するときはコネクタの方向に注意してください。

- 本図はアナログ通信機器との接続を概念的に示しています。実際の接続方法は、使用する機器や設置する場所などの使用状況に合わせる必要があるため、本図と異なる場合があります。

接続上の注意

■アースの接続

落雷等の電撃事故による人身、装置への損傷を防止するために必ず3極のコンセントに接続してください。3極のコンセントがお使いになれない場合は、付属の変換プラグのアース線を必ず接地してください。

■ LAN の接続

- ●LAN ケーブル（カテゴリ 5）をお使い下さい。
- ● ＬＡＮ以外の回線には接続しないでください。
- ●お使いになるネットワーク環境が変更になった場合は、装置の電源を入れ直してください。

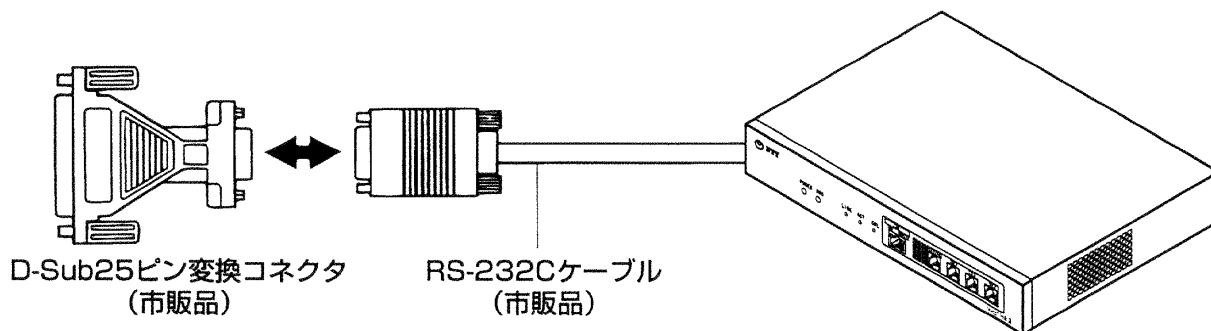
■電源との接続

- ●電源コードは付属の電源コードを使用してください。
- ●付属の電源コードは AC100V（50Hz または 60Hz）の電源コンセントに接続してください。

■設定用パソコンの接続

設定用パソコンは、ＯＳがWindows®95、Windows®98、Windows NT®4.0のものを接続してください。設定用パソコンの接続は LAN からのリモート接続ができます。本装置とローカル接続したい場合は、RS-232Cケーブルをご使用ください。ノートパソコンなどで特殊な形状のコネクタの場合は、変換コネクタまたはケーブルをお客さまでご用意ください。

●25 ピンのシリアルポートを持つパソコンに接続する場合
RS-232Cケーブルと D-Sub25 ピン変換コネクタをつなぎ、パソコンのシリアルポートに接続します。

D-Sub25ピン変換コネクタ（市販品）　RS-232Cケーブル（市販品）

ワンポイント

● RS-232Cケーブルはクロスケーブルです。

接続します

■アナログ電話機及びG3ファクスの接続

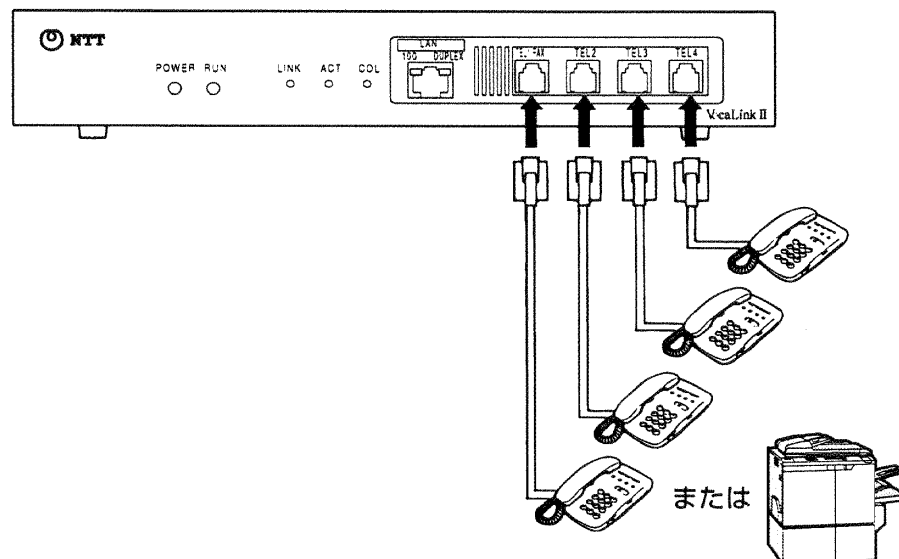
●一般のアナログ回線に接続するプッシュ式（PB）の電話機またはG3ファクスが接続できます。
G3ファクスは「TEL1/FAX」のみ接続可能ですので、「TEL2～TEL4」へは接続しないでください。

●(財)電気通信端末機器審査協会の適合認定を取得している電話機またはG3ファクスを接続してください。

●アナログポートへの電話機またはG3ファクスの接続は、その電話機またはG3ファクスに添付されている電話機コードを使用してください。

●一般のアナログ回線との仕様の違いにより、お使いいただけない電話機やG3ファクスもあります。

●接続は、次の条件に従ってください。

- 1つのチャネルには、電話機やG3ファクスを一台だけ接続してください。ブランチ接続はできません。
- 電話機やG3ファクスとの接続に使用するケーブルの長さは、最長200m（0.5Φ）を目安としてください。接続する電話機やG3ファクスの直流抵抗値などによって異なります。
- 配線は、屋内配線に限ります。屋外にまで渡る配線は絶対に行なわないでください。

コンソールソフトのインストール

本装置の設定を行うためのコンソールソフトは、付属品のフロッピーディスクに格納されています。
コンソールソフトを使用する場合には、フロッピーディスクよりコンソールソフトをパソコンにインストールすることが必要です。

1 付属品のフロッピーディスク（1/3）をパソコンのドライブに入れます。

2 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

3 「3.5インチFD」アイコンをダブルクリックします。

4 「SETUP」アイコンをダブルクリックします。

セットアッププログラムが起動します。

5 画面の表示に従いインストールします。

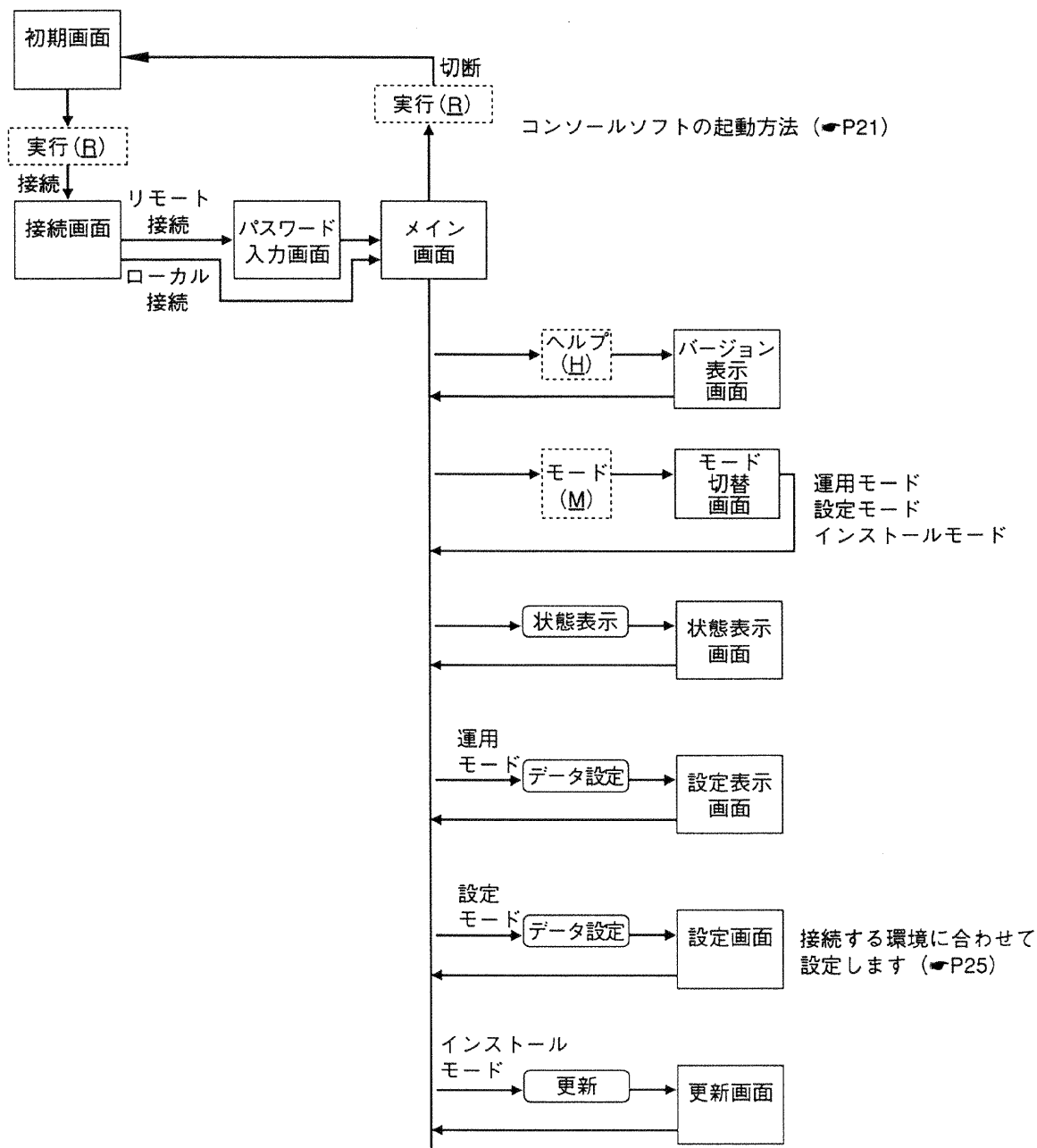
6 インストールが終了しました。

インストール終了後、パソコンの再起動を行ってください。

お知らせ

- コンソールソフトのインストールをする場合は、起動中のプログラムはすべて終了してください。
- フロッピーディスクは、1.44MBフォーマットです。
- このページの内容は一例を示しています。

設定画面の流れ

装置との接続と、コンソールを使った設定に関わる画面の遷移を説明します。

ワンポイント

● 各モードとボタンの関係を下記に示します。

ボタン＼モード	運用モード	設定モード	インストールモード
データ設定	設定表示	設　定	※
状態表示	状態表示	状態表示	状態表示
更　新	※	※	更　新

※は非アクティブ表示となります。

コンソールソフトの起動方法

コンソールソフトの操作は、Windows®95、Windows®98 または WindowsNT®4.0 共にほぼ同じです。

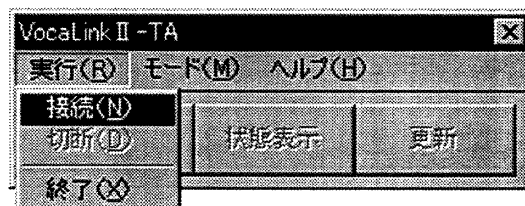
1 タスクバーの「スタート」ボタンをクリックして、「プログラム」をポイントし、「VocaLink Ⅱ -TA」をクリックします。

2 〔初期〕画面が表示されます。

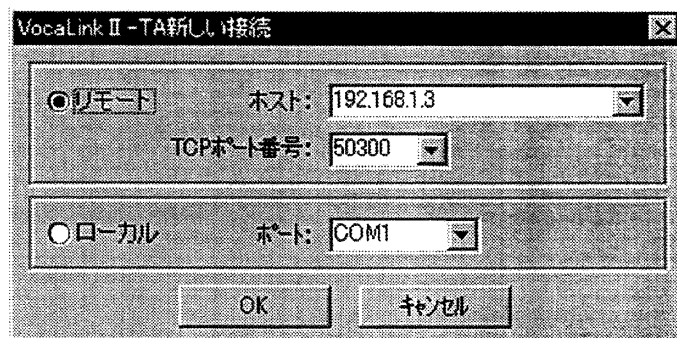
画面内の「実行」をクリックしてください。
メニューバーが表示されますので、「接続」を選んでください。

3 〔接続〕画面が表示されますので、装置との接続形態を選択して、「OK」ボタンをクリックします。

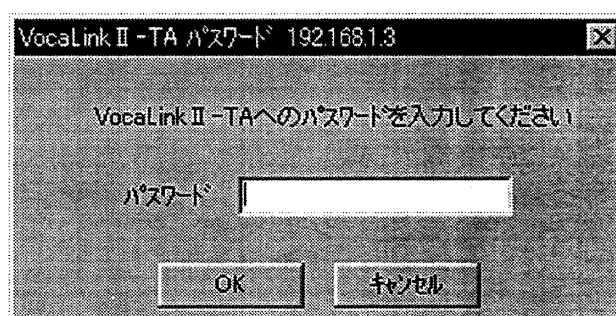
リモートの場合はホストに装置の IP アドレス、TCP ポート番号にはメンテナンス用 TCP ポート番号を入れてください。
ローカルの場合は接続した COM ポートを選んで下さい。

VocaLink Ⅱ -TA新しい接続
◉リモート　ホスト: 192.168.1.3
TCPポート番号: 50300
○ローカル　ポート: COM1
OK　キャンセル

ワンポイント

- 装置のIPアドレスとメンテナンス用TCPポート番号は出荷時に以下のように設定されています。
  IPアドレス　192.168.1.3
  メンテナンス用TCPポート番号
  50300

コンソールソフトの起動方法

● ローカル接続では〔パスワード入力〕画面は表示されません。

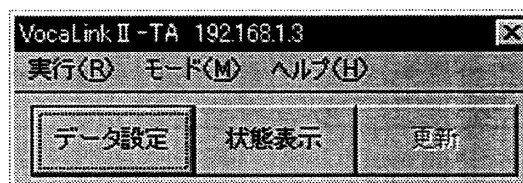
4 リモート接続の場合は〔パスワード入力〕画面が表示されます。

パスワードを入力して「OK」ボタンをクリックしてください。

ワンポイント

●装置のモードにより、有効になるボタンが違います。

・運用モード
「データ設定」設定内容を確認できます
「状態表示」装置の状態を確認できます
・設定モード
「データ設定」設定可能です
「状態表示」装置の状態を確認できます
・インストールモード
「状態表示」装置の状態を確認できます
「更　　新」プログラムや音声ガイダンスをインストールします

5 〔メイン〕画面が表示されます。

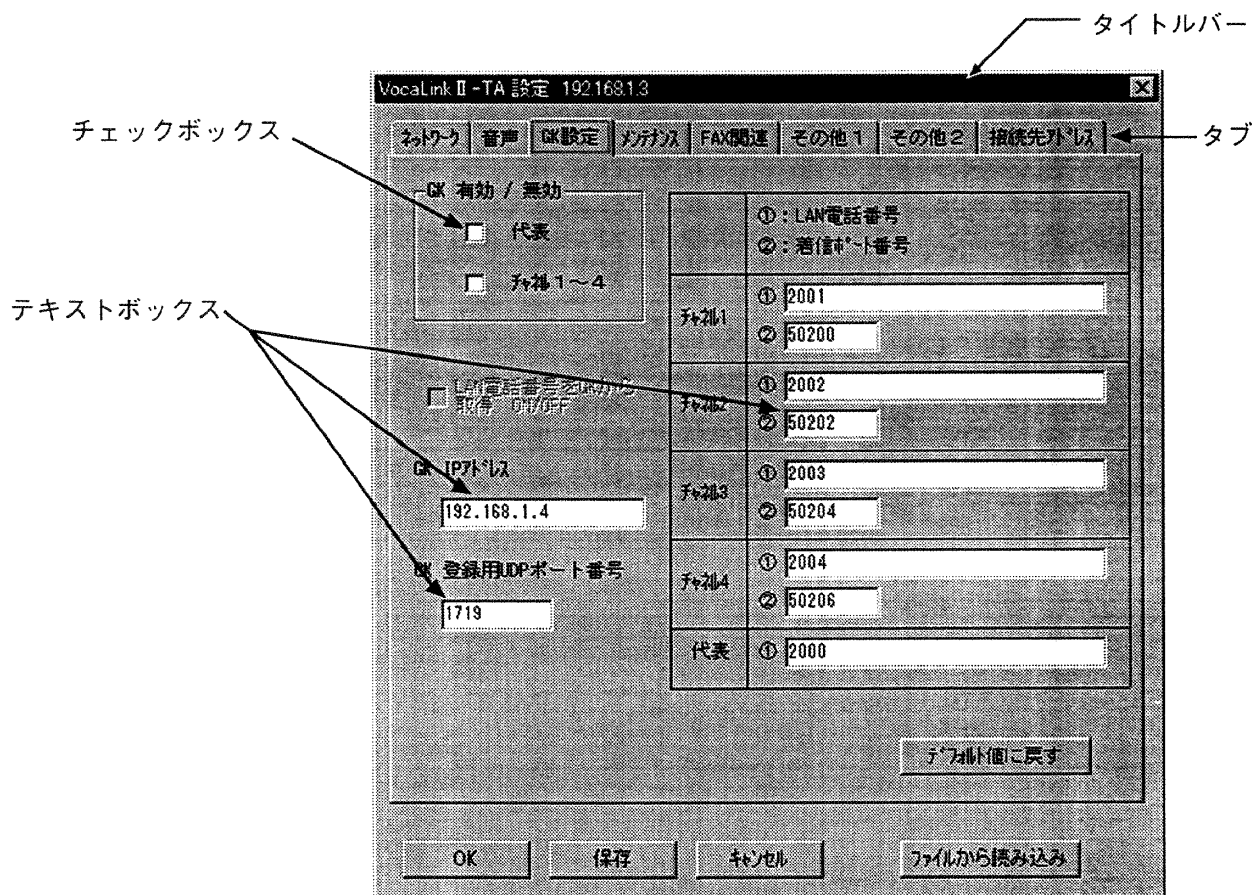
「データ設定」「状態表示」ボタンが有効になります。
これで接続が完了しました。

コンソールソフトの設定方法

コンソールソフトの基本操作

■基本操作

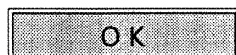
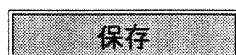
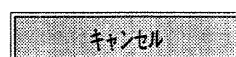
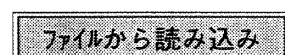
コンソールソフト画面のアイコンやボタンをマウスで操作して設定を行います。
コンソールソフト設定画面の各アイコンをクリックして、設定画面を出すと、設定されている状態（値）を表示します。
設定値を変更したいときは、この設定画面でマウスやキーボードにより変更し、最後に「ＯＫ」ボタンをクリックします。

■入力方法

画面の例で入力方法とボタンの意味を説明します。

● 画面上の項目の左に、チェックボックス（□）があり、このボックスがチェック（√）されていると「あり」または「する」が設定されています。
チェックされていないチェックボックス（□）をクリックすると、チェックマーク（√）が表示され、チェックされているチェックボックス（□）をクリックすると チェックマーク（√）が消えます。
● テキストボックス□のところは、キーボードで入力します。

コンソールソフトの設定方法

■ボタンの説明

項目の下段にあるボタンの説明をします。動作させるときはボタンをクリックします。

ボタン	説明
OK	画面に表示されている設定値を含め、設定データすべてを書き込みます。
保存	画面に表示されている設定値を含め、設定データすべてを書き込むとともに、コンソールソフト用のvltファイルにも保存します。
キャンセル	ひとつ前の画面に戻ります。変更した設定値は無効になります。
ファイルから読み込み	保存しておいたvltファイルから設定値を読み込んで表示します。 その後「ＯＫ」ボタンをクリックすることで、vltファイルの内容を書き込みます。
デフォルト値に戻す	画面に表示されている設定値を、初期値に変更します。

ワンポイント

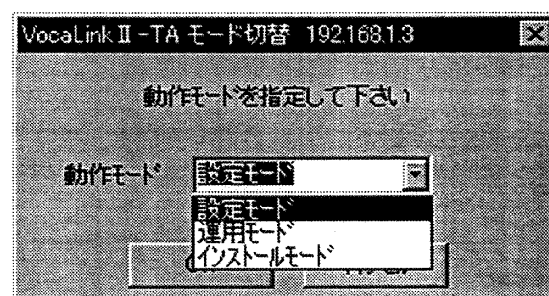
- 設定を変更した後は、必ず「ＯＫ」ボタンをクリックし、設定してください。設定変更中に、本体の電源は切らないでください。故障の原因になります。
- vltファイルとは、設定値をパソコン上に保存するためのファイルです。コンソールソフトがインストールされているディレクトリに存在します。本装置を複数台設定するときに「ファイルから読み込み」を行い、装置固有の情報のみ(IPアドレスなど)を変更し、「ＯＫ」ボタンをクリックすると入力間違いなどが減り便利です。また、名前を変えて設定値を保存することもできます。

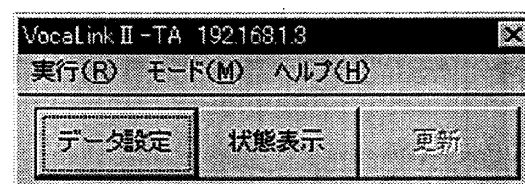
接続する環境に合わせて設定します

ワンポイント

- 装置のモードを変更しますので時間がかかることがあります。
- モード切替画面と同時に、状態画面も表示されます。

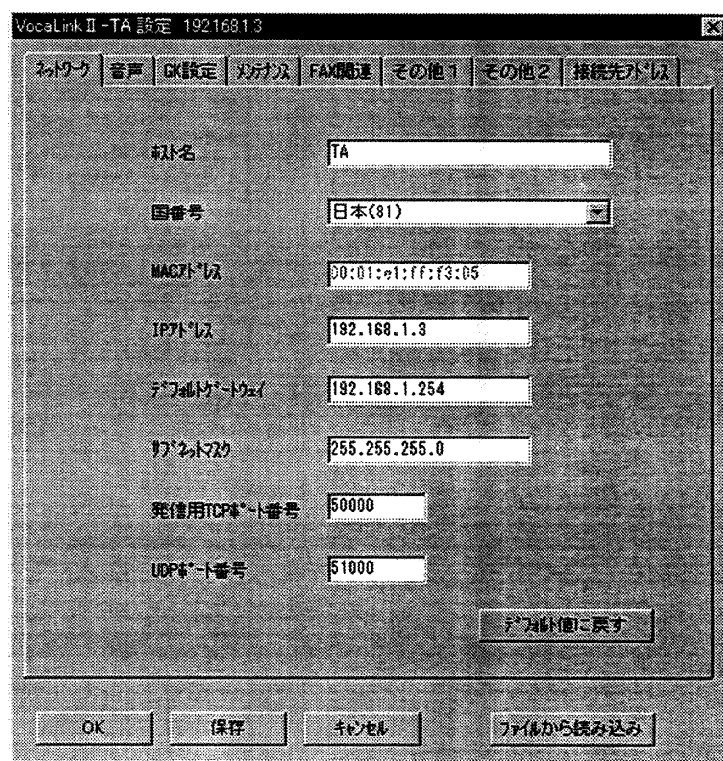
1 設定モードに変更します。

装置と接続された状態で〔メイン〕画面の画面内の「モード」をクリックし、メニューバーの「モード切替え」を選びます。
モード切替画面が表示されますので、メニューバーの「設定モード」を選び、「OK」ボタンをクリックします。

2 〔メイン〕画面の「データ設定」ボタンをクリックします。

コンソールソフトの設定方法

ワンポイント

- あらかじめ、vltファイルに保存されている設定値を設定したい場合は、「ファイルから読み込み」ボタンをクリックしてください。表示が指定したファイルから読み込んだ設定値に変更されます。
- 設定をやめる場合は、「キャンセル」ボタンをクリックしてください。［メニュー］画面に戻ります。

3 設定値を変更します。

〔設定〕画面が表示されます。
画面内の「タブ」の部分をクリックするとそれぞれの現在の設定値が表示されます。接続する環境に合わせて設定値を変更してください。

ワンポイント

- 設定値を保存する場合は、画面下部にある「保存」ボタンをクリックしてください。変更した設定値が設定され、同時にコンソールソフトの指定したvltファイルに保存されます。

4 変更した設定値を設定します。

画面下部にある「OK」ボタンをクリックしてください。
変更した設定値が設定されます。

これで、設定は完了です。

ワンポイント

- 装置のモードを変更しますので時間がかかることがあります。

5 運用モードに戻します。

〔メイン〕画面内の「モード」をクリックし、メニューバーの「モード切替え」を選びます。
モード切替画面が表示されますので、メニューバーの「運用モード」を選び、「OK」ボタンをクリックしてください。

コンソールソフトの設定内容

設定項目と初期状態

VocaLink Ⅱ - テレホンアダプタのコンソールソフトで設定が必要な項目と初期状態（出荷状態）を設定画面の各タブ毎に説明します。

■ネットワーク

本装置が設置される環境に合わせた設定を行います。

項　目	内　容	初期値
ホスト名	32 文字以内の半角英文字で設定してください。	TA
国番号	日本の国番号を設定します。 日本は81 であり、初期状態から特に変更する必要はありません。	81
IP アドレス	本装置が設置される環境で、割り当てられたIPアドレスを設定します。	192.168.1.3
デフォルトゲートウェイ	本装置が設置される環境でのデフォルトゲートウェイのIPアドレスを設定します。	192.168.1.254
サブネットマスク	本装置が設置される環境でのサブネットマスクを設定します。	255.255.255.0
発信用 TCP ポート番号	他のVocaLink Ⅱシステムと通信するためのTCP ポート番号です。本設定値から +99 までの間を使い発信します。 初期状態から特に変更する必要はありません。	50000
UDP ポート番号	他のVocaLink ⅡシステムとУ通信するためのUDPポート番号です。 初期状態から特に変更する必要はありません。	51000

ワンポイント

- IPアドレス、デフォルトゲートウェイ、サブネットマスクは、リモートからのLAN接続の設定用としてデフォルト値が入っています。必ずお使いになる環境に合せて設定してください。設定されていない場合は動作しません。
- MACアドレスは装置固有の値です。変更はできません。

コンソールソフトの設定内容

■音声

音声に関する設定を行います。

項　目	内　容	初期値
パケット化サイズ	各音声符号化のパケット化サイズを設定します。 設定なしを選んだ場合は、その符号化則を使うことはできません。	G.729A　10ms G.723.1　30ms μ-law　30ms
音声受信バッファ	ネットワークの状態によって、音声パケットの到着時間が一定にならないことがあり、そのゆらぎを吸収するために本装置はバッファリング機能を持ちます。 ・最大蓄積パケット数 本装置内にためるパケット数の最大を示します。この設定値を越えた場合はパケットを廃棄します。 ・受信蓄積パケット数 通信開始時のバッファリング数です。この設定を多くするとゆらぎには強くなりますが、遅延時間が大きくなります。 ・許容蓄積パケット数／タイマ値（秒） 本装置内にたまっているパケット数がこの設定値に到達してから、タイマ値以上の時間が経過したのちにたまっているパケットを廃棄します。これで慢性的は遅延を防止します。	最大蓄積パケット数 16 受信蓄積パケット数 2 許容蓄積パケット数 10 タイマ値 10
RTCP SDES 送信間隔（秒）	通信状態を確認するためにRTCPでのSDESパケットの送信間隔を設定します。	5
AEC　ON/OFF	各ポートごとにエコーキャンセラの ON/OFF を設定します。	ON
無音制御 ON/OFF	無音制御の ON/OFF を設定します。	OFF

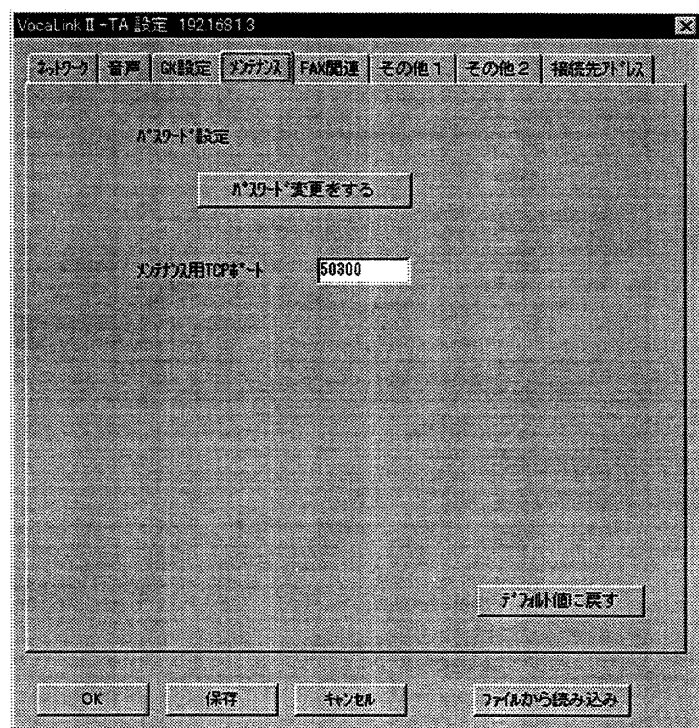
■GK設定

ゲートキーパーや電話番号に関する設定を行います。

項　目	内　容	初期値
GK有効／無効	ゲートキーパー有効／無効の設定です。 有効の場合、装置初期化時にゲートキーパーへ登録を行い、登録が正常に終了するまで、初期化中のままです。装置内部の接続先アドレステーブルは参照しません。 無効の場合は、ゲートキーパー通信は一切行わず、アドレス解決は装置内部の接続先アドレステーブルを参照します。	無効（チェックなし）
LAN電話番号をGKから取得　ON/OFF	ゲートキーパー有効の場合に、LAN電話番号をゲートキーパーから取得するか、しないかを設定します。 取得ONにするとLAN電話番号設定ができなくなります。 取得OFFにするとLAN電話番号設定ができます。 ゲートキーパー無効の場合は本設定はできません。	OFF
GK　IPアドレス	本装置が設置される環境でのゲートキーパーのIPアドレスを設定します。	192.168.1.4
GK登録用UDPポート番号	ゲートキーパーのUDPポート番号を設定します。	1719
LAN電話番号	各チャネルおよび代表のLAN電話番号を設定します。 LAN電話番号をゲートキーパーから取得OFFの場合に設定可能になります。	チャネル1　2001 チャネル2　2002 チャネル3　2003 チャネル4　2004 代　表　2000
着信ポート番号	各チャネルに着信させる場合の着信用TCPポート番号を設定します。代表は、H.323で決定されている1720ポートを使いますので、設定できません。 発信用TCPポート番号で設定した値から+99までの間は設定できません。	チャネル1　50200 チャネル2　50202 チャネル3　50204 チャネル4　50206

コンソールソフトの設定内容

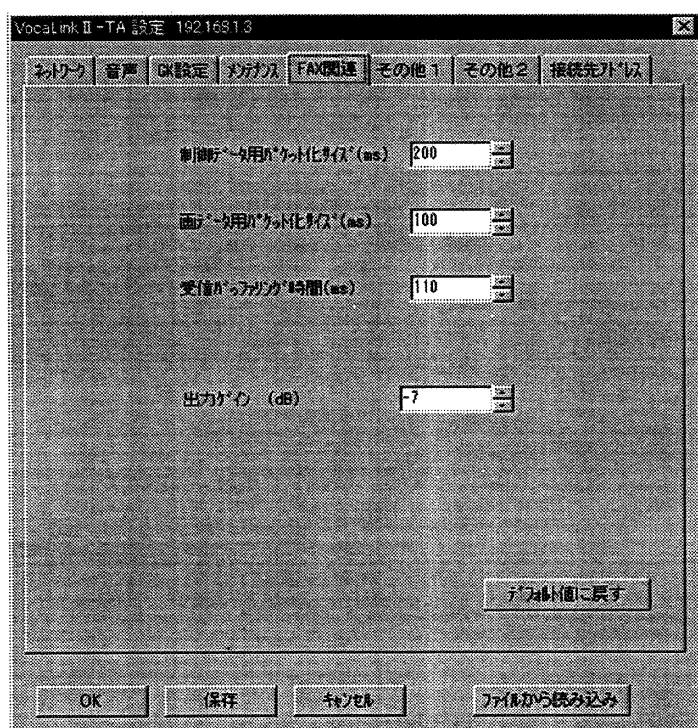
■メンテナンス

設定用パソコンとLANでリモート接続する場合に必要な設定です。

項　目	内　容	初期値
パスワード	リモート接続の場合、パスワードが必要であり、そのパスワードの設定です。	SYSTEM
メンテナンス用TCPポート	リモート接続する時に、本装置のIPアドレスとTCPポート番号が必要であり、そのTCPポート番号の設定です。	50300

お知らせ

- 「デフォルト値に戻す」をクリックしても、パスワードは変更されません。

■FAX関連

ファクス通信用の設定です。

項　目	内　容	初期値
制御データ用パケット化サイズ（ms）	ファクス通信の制御データのパケット長を設定します。 設定値が大きいと伝送効率は良くなりますが、ネットワークのゆらぎには弱くなります。	200
画データ用パケット化サイズ（ms）	ファクス通信の画データのパケット長を設定します。 設定値が大きいと伝送効率は良くなりますが、ネットワークのゆらぎには弱くなります。	100
受信バッファリング時間（ms）	ネットワークから受信したファクスのパケットをG3ファクスに流し始める時間を設定します。設定値が大きいとネットワークのゆらぎに強くなりますが、遅延が大きくなり、G3ファクスのエラー終了が発生しやすくなります。	110
出力ゲイン（dB）	ファクス通信で用いる信号の出力ゲインを設定します。	−7

コンソールソフトの設定内容

■その他 1

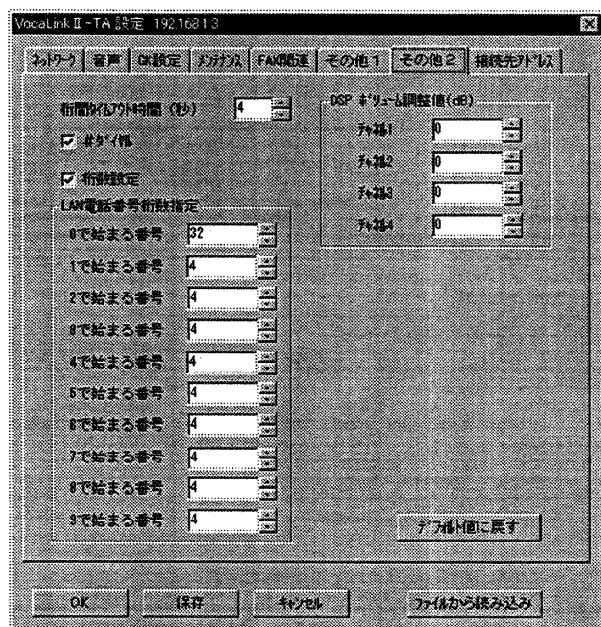
各種タイムアウト時間の設定とキャッチホンの設定をします。

項　目	内　容	初期値
タイムアウト時間(秒)	各種ネットワーク関係のタイムアウト時間を設定します。 ・TCPハンドシェーク 通信開始時のTCPハンドシェークのタイムアウト時間です。タイムアウトの場合は、通信できません。 ・RTP/RTCP受信待ち 通信監視用のRTP/RTCPの受信監視のタイムアウト時間です。タイムアウトになると、通信が切れたと判断し、通信終了します。	TCPハンドシェーク 30 RTP/RTCP受信待ち 30
RASメッセージ	RASメッセージの応答監視のタイムアウト時間（秒）とリトライ回数です。RASメッセージはゲートキーパーとの通信に使用します。 ・RCF待ち　H225.0 RASでの登録要求（RPQ）の応答待ちの状態です。 ・UCF待ち　H225.0 RASでの非登録要求（URQ）の応答待ちの状態です。 ・ACF待ち　H225.0 RASでの参加要求（ARQ）の応答待ちの状態です。 ・BCF待ち　H225.0 RASでの帯域幅変更要求（BRQ）の応答待ちの状態です。 ・DCF待ち　H225.0 RASでの離脱要求（DRQ）の応答待ちの状態です。	タイムアウト　リトライ回数 RCF待ち　3　2 UCF待ち　3　1 ACF待ち　3　2 BCF待ち　3　2 DCF待ち　3　2
キャッチホンON/OFF	キャッチホン機能のON／OFFの設定をします。	OFF

ワンポイント

● キャッチホンONの設定をしているアナログポートでの通話時は、代表着信番号による着信に対しては、キャッチホン機能がはたらきません。

■その他 2

電話番号確定条件の設定やDSPのボリューム調整値の設定です。

項　目	内　容	初期値
桁間タイムアウト時間(秒)	電話番号入力確定のための桁間タイムアウト値を設定します。タイムアウトになると電話番号を確定します。	4
#ダイヤル	チェックを入れると電話番号入力の確定に#ダイヤルを設定します。電話番号入力の最後に#を入力すると電話番号を確定します。	あり
桁数設定	チェックを入れると「LAN電話番号桁数指定」の各設定値を有効にします。	あり
LAN電話番号桁数指定	入力された最初の番号ごとに桁数を設定します。「桁数設定」が有効の場合に設定できます。	0で始まる番号　32 1～9で始まる番号　4
DSPボリューム調整値(dB)	DSPのボリュームの調整を設定します。各チャネルごとに設定します。設定の範囲は、ミュートおよび、－31dBから15ｄＢまでです。	0

■ 接続先アドレス

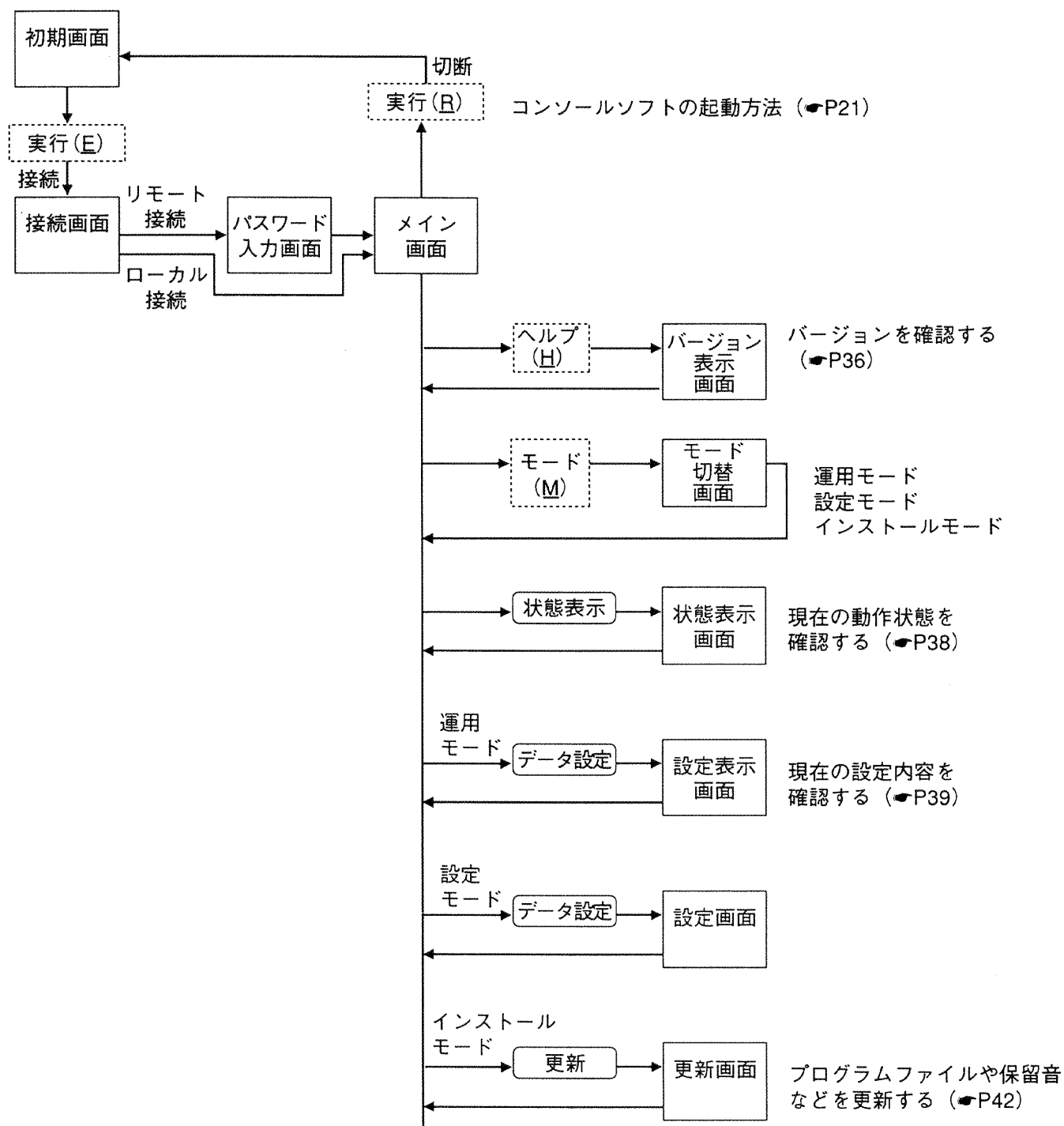
VocaLink Ⅱ - ゲートキーパーがシステム上に存在しない場合に必要な接続先アドレスを設定します。
接続先電話番号に対応するIPアドレスとポート番号を設定します。最大32個まで設定することができます。
本装置は発信時に入力された電話番号を、設定された接続先アドレステーブルを参照し、相手のIPアドレスとポート番号に変換します。

- 「追加」ボタンでアドレステーブルの最後に追加します。
- 「変更」ボタンで選択しているアドレステーブルの行を変更します。
- 「クリア」ボタンで選択しているアドレステーブルの行をクリアします。
- 「オールクリア」ボタンでアドレステーブル全体をクリアします。

ワンポイント

- ゲートキーパーなしの場合、本設定に対応電話番号が設定されていない場合、発信することができなくなります。
- ゲートキーパーありの場合、本設定は無効となります。
- 接続先電話番号の設定は、桁数の長い方を優先して動作します。
- GK有効/無効の設定はGK設定で行ないます。（☛P29）

メンテナンス画面の流れ

本装置のメンテナンスは、付属のコンソールソフトを用いて行ないます。
メンテナンスに関わるコンソールの画面遷移を説明します。

1 お使いになる前に
2 設定する
3 メンテナンス
4 機能と操作方法
5 ご参考に

バージョンを確認する

1 コンソールソフトを起動します。

手順は「コンソールソフトの起動方法」を参照してください。
(☛P21)

2 〔メイン〕画面が表示されますので、画面内の「ヘルプ」をクリックしてください。

● バージョンの確認は装置のすべてのモードで確認できます。

3 バージョンを確認します。

バージョン情報のメニューをクリックすると［バージョン情報］画面が表示されますので、バージョンを確認してください。

4 バージョンを確認したら、「OK」をクリックしてください。

現在の動作状態を確認する

1 コンソールソフトを起動します。

手順は「コンソールソフトの起動方法」を参照してください。(☛P21)

2 〔メイン〕画面が表示されますので、画面内の「状態表示」をクリックしてください。

● 状態は装置のすべてのモードで確認できます。

現在の動作状態を確認する

3 状態を確認します。

状態画面1が表示されますので、確認してください。
運用モードの場合には、〔詳細〕ボタンをクリックすると状態画面2となり、設定されているLAN電話番号と着信転送先が表示されます。
状態画面2の〔戻す〕ボタンをクリックすると状態画面1に戻ります。

状態画面1

状態画面2

4 状態を確認したら、「閉じる」をクリックしてください。

ワンポイント

- 装置は、装置の動作モードを示します。
- チャネル1からチャネル4は、それぞれアナログポートの状態を示します。
- LANは、LANのネットワークの状態を示します。
- DIPSWは、現状のSW1の設定値を示します。
- 電話番号は代表およびチャネル1からチャネル4に設定されたLAN電話番号です。
- 不在転送先は不在転送を設定した先の電話番号を示します。

お知らせ

- 電源を入れ直すか、装置のモードを変更すると、不在転送は解除されます。(設定なし)

現在の設定内容を確認する

1 コンソールソフトを起動します。

手順は「コンソールソフトの起動方法」を参照してください。
(☛P21)

2 [メイン] 画面が表示されますので「データ設定」をクリックしてください。

3 [データ表示画面] が表示されます。

現在の設定内容を確認してください。
変更はできません。

4 設定内容を確認したら「キャンセル」をクリックしてください。

プログラムファイルや保留音などを更新する

プログラムファイルのバージョンアップや保留音、音声ガイダンスの変更を行います。

更新するデータについて

更新データの種類とその作成方法について説明します。

項　　目	内　　容
ファームプログラム (拡張子 cha)	本装置の動作プログラムです。 バージョンアップ時に更新します。
保留音データ (拡張子 wav)	キャッチホンや転送時に流れる保留音です。 音声符号化則はμ-law、G.723.1、G.729Aです。
音声ガイダンス1 (拡張子 wav)	発信時にネットワークの問題や相手の装置の電源が入っていないなどシステム上の問題で相手を呼び出すことができない場合に流れる音声ガイダンスです。音声符号化則はμ-law、G.723.1、G.729Aです。
音声ガイダンス2 (拡張子 wav)	発信時に入力された電話番号が間違っているか、登録されていない場合に流れる音声ガイダンスです。音声符号化則はμ-law、G.723.1、G.729Aです。
音声ガイダンス3 (拡張子 wav)	将来の拡張用です。 現在使われていません。
音声ガイダンス4 (拡張子 wav)	将来の拡張用です。 現在使われていません。
DSPカーネル部	内蔵するDSPのカーネル部のプログラムです。 バージョンアップ時に更新します。
DSPプログラム部	内蔵するDSPのプログラム部です。 バージョンアップ時に更新します。

ワンポイント

- ファームプログラムの情報、DSPカーネル部、DSPプログラム部の情報や音声データの更新等に関しては、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店へご相談ください。

更新データの準備ができたら、インストールを行います。

更新します

1 コンソールソフトを起動します。

手順は「コンソールソフトの起動方法」を参照してください。(☛P21)

2 インストールモードに変更します。

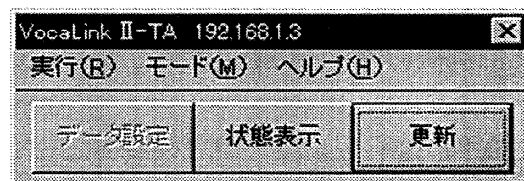
〔メイン〕画面内の「モード」をクリックし、メニューバーの「モード切替え」を選びます。モード切替画面が表示されますので、メニューバーの「インストールモード」を選び、「OK」ボタンをクリックしてください。

ワンポイント

- 装置のモードを変更しますので時間がかかることがあります。
- モード切替画面と同時に、状態画面も表示されます。

3 〔メイン〕画面の「更新」ボタンが有効になりますのでクリックしてください。

VocaLink Ⅱ-TA 192.168.1.3
実行(R) モード(M) ヘルプ(H)
データ設定 状態表示 更新

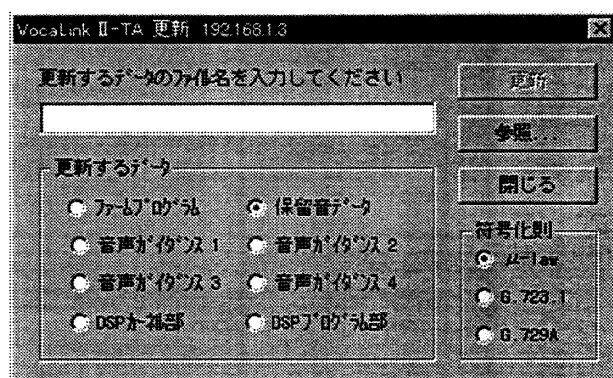
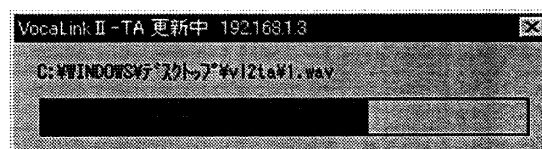
プログラムファイルや保留音などを更新する

お願い

- 更新するファイル名とデータの種別を間違うと正常な動作ができません。
- 保留音、音声ガイダンスは必ず符号化則の設定を正しく行ってください。間違っていると正しく再生されません。

ワンポイント

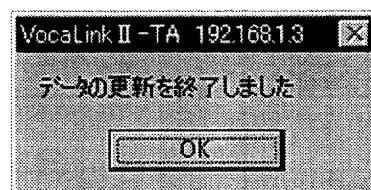
- 更新データの間違いを減らすために拡張子のチェックを行います。エラーの場合は再度確認してください。

4 〔更新〕画面が表示されます。更新するデータのファイル名を入力し、更新するデータの種別を選んでください。

保留音と音声ガイダンスは符号化則も設定してください。
「OK」ボタンをクリックしてください。

5 〔更新〕状態が表示されます。

6 更新を終了します。

更新が終了したことを伝える画面が表示されます。「OK」ボタンをクリックして更新を終了してください。

お願い

- 更新中に装置の電源がおちたり、パソコンにエラーが発生した場合は、通常の運用はできません。必ずもう一度更新を行ってください。

7 運用モードに戻します。

〔メイン〕画面内の「モード」をクリックし、メニューバーの「モード切替え」を選びます。
モード切替画面が表示されますので、メニューバーの「運用モード」を選び、「OK」ボタンをクリックしてください。

基本機能

■発信する

PB 信号の送れるアナログ電話機から通常の電話と同様に相手の電話番号をダイヤルします。

■着信する

通常の電話の着信と同様、呼び出し音が鳴りますので、受話器をとってください。

●代表のLAN電話番号に着信があった場合は、チャネル4から順に空いているチャネルに着信させせます。

■電話を切る

通常の電話と同様、受話器をおいてください。

■ファクス通信をする

PB 信号の送れる G3 ファクスから通常のファクス通信と同様に操作します。

STOP お願い

● 外線へ電話をおかけになる際に、市外局番＋市内局番＋加入者番号（03-××××-××××など）以外の電話番号および110番などの“1××”で始まる3桁の局番無しの電話番号へ発信する場合、VocaLink Ⅱ -ISDN ゲートウェイの設定によっては、相手先にかからない場合があります。これらの電話番号への通話は、VocaLink Ⅱ システム以外の通常の電話を必ずご利用ください。これらの電話番号の詳細については、VocaLink Ⅱ -ISDN ゲートウェイ取扱説明書をご覧ください。

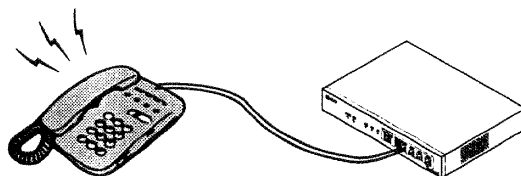
ワンポイント

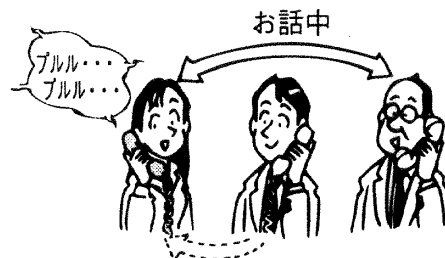
● **“1××”で始まる３桁の局番無しの電話番号例**

110：警察，119：火事・救助・救急，113：電話の故障，114：お話し中調べ，115：電報，
104：電話番号案内（有料），117：時報（有料），106：コレクトコール・クレジット通話，
100：100番通話，116：電話の新設・移転・各種サービスのお問い合わせ等，
177：天気予報（有料）など

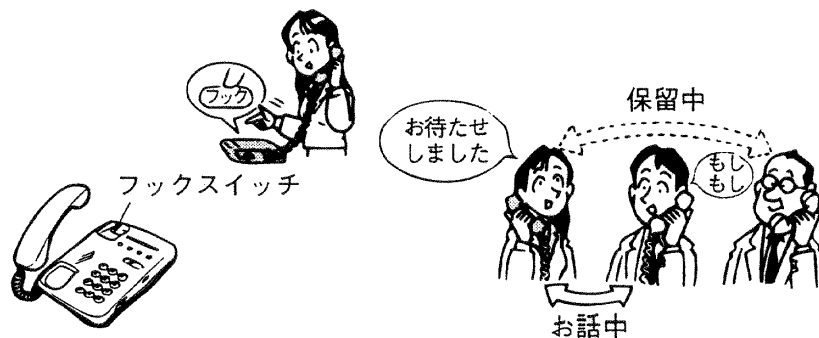
キャッチホン機能

本機能は、各チャネル毎に利用するかしないかを、コンソールソフトで設定できます。

1 他の電話からの着信があり、着信音が鳴ります。

2 ハンドセットを取り上げて、相手の方と通話してください。

通話中に第3者からの着信があると、キャッチ信号音（プルル･･･プルル･･･） が鳴ります。

3 フックスイッチを押してください。

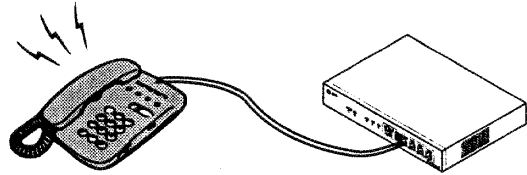
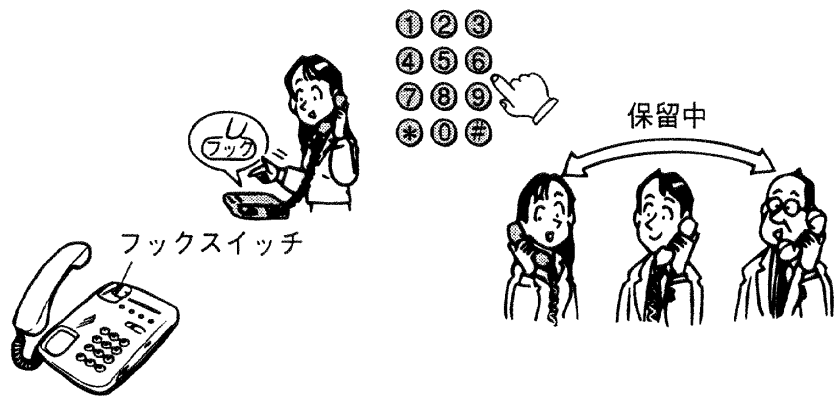
第3者との通話ができます。
最初の通話の相手は、保留されています。

4 もとの相手との通話に戻すには、再度フックスイッチを押します。

ワンポイント

- キャッチホン機能とは、通話中に新しく第3者からの着信があった場合、その着信を信号音で知らせる機能です。本装置に接続されたアナログ電話機からの操作により第3者との通話を行うことができます。
- ファクス通信中はキャッチホン機能は動作しません。
- キャッチホン機能の設定をしているアナログポートでの通話時は、代表着信番号による着信に対しては、キャッチホン機能がはたらきません。

転送機能

本機能は、通話中の相手を他の電話機に転送します。

1 他の電話からの着信があり、着信音が鳴ります。

2 ハンドセットを取り上げて、相手の方と通話してください。通話中にフックスイッチを押して、ピーという信号音が聞こえた後に転送先の電話番号を入力します。この間、通話中の相手は、保留されています。発信側からでも着信側からでも通話中にフックスイッチを押すことにより、転送は行えます。
転送を中止する場合は、再度フックスイッチを押します。

3 転送先の相手が応答したことを確認し、ハンドセットを戻します。
保留されていた相手は、転送先と通話が可能になります。

お知らせ

- 転送先にVocaLink Ⅱ-ISDNゲートウェイおよびVocaLink Ⅱ-ビジネスシステムアダプタを指定する場合には、VocaLink Ⅱ-ゲートキーパーが必要です。

不在転送機能

不在転送を登録すると、不在中に電話をかけてきた方の着信を他の電話機に着信させることができます。
特定のプッシュボタン操作により、VocaLink Ⅱ-テレホンアダプタに対して不在転送を登録します。

1 不在転送を登録します。

受話器をあげて「# 121」をプッシュボタンで入力します。番号入力を要求する信号音「ピーッ」が鳴りますので、転送先の電話番号をプッシュボタンで入力してください。その電話番号が登録されると信号音「ピッピッ」が鳴りますので、受話器を置いてください。次の着信からは、設定した電話番号に転送されます。

2 不在転送を解除します。

受話器をあげて「# 120」をプッシュボタンで入力します。信号音「ピッピッ」が鳴ったら受話器を置いてください。これで不在転送は解除されます。

お知らせ

- 転送先に VocaLink Ⅱ-ISDN ゲートウェイおよびVocaLink Ⅱ-ビジネスシステムアダプタを指定する場合には、VocaLink Ⅱ-ゲートキーパーが必要です。
- 電源を入れ直すか、装置のモードを変更すると、不在転送は解除されます。

ワンポイント

- 「# 121」、「# 120」のプッシュボタン操作の後に以下のような信号音が鳴ります。
  信号音の意味は、以下のようになっています。

「ピーッ」:
　プッシュボタンによる入力を促す信号音
「ピッピッ」:
　プッシュボタンの入力を受け付けたことを表す信号音
「ピーピーピーピー」:
　プッシュボタンの入力を受け付けなかったことを表す信号音、または不在転送先が設定されていることを表す信号音
　この時は、#120 で不在転送先を解除するか、もう一度最初からやり直してください。

故障かな？と思ったら

お問い合わせをされる前に、もう一度次の点を確認してください。

症状	原因
全く動作しない	●装置の電源は入っていますか。(POWERランプで確認) ●電源コードは装置に正しく差し込まれていますか。 ●電源プラグはコンセントに正しく差し込まれていますか。
初期化中のままで運用にならない	●VocaLinkⅡ-ゲートキーパーありの設定の場合は、VocaLinkⅡ-ゲートキーパーが立ち上がっていますか。
発信ができない	●装置のモードは運用モードになっていますか。(RUNランプで確認) ●設定が違っていませんか。 ●アナログ電話機の接続ポートは正しいですか。 ●接続されているアナログ電話機やG3ファクスはPBモードになっていますか。 ●相手の電話番号は間違っていませんか。 ●ネットワークに正しく接続されていますか。(LINKランプで確認) ● VocaLinkⅡ-ゲートキーパーありの設定の場合は、VocaLinkⅡ-ゲートキーパーは立ちあがっていますか。 ● VocaLinkⅡ-ゲートキーパーなしの設定の場合は、接続先電話番号テーブルの設定はあっていますか。
着信しない	●装置のモードは運用モードになっていますか。(RUNランプで確認) ●設定が違っていませんか。 ●アナログ電話機の接続ポートは正しいですか。 ●アナログ電話機のリンガがオフになっていませんか。 ●ネットワークに正しく接続されていますか。(LINKランプで確認) ● VocaLinkⅡ-ゲートキーパーありの設定の場合は、VocaLinkⅡ-ゲートキーパーは立ちあがっていますか。
通話が時々とぎれる	●ネットワークが混んでいませんか。(COLランプで確認)
FAX通信ができない	●装置のモードは運用モードになっていますか。(RUNランプで確認) ●「TEL1/FAX」に接続していますか。 ●G3のファクスですか。
設定用パソコンと接続できない	●装置のモードは設定モードになっていますか。(RUNランプで確認) ●設定の方法が間違っていませんか。 リモートの場合 ●LANのネットワークはつながっていますか。(LINKランプで確認) ●装置のIPアドレスとTCPポート番号はあってますか。 ローカルの場合 ●RS-232Cのケーブルは間違っていませんか。 ●設定用コンソールソフトのCOMポートの設定はあっていますか。
更新ができない	●装置のモードはインストールモードになっていますか。(RUNランプで確認) ●更新の方法が間違っていませんか。 ●更新するデータの種別やファイルは間違っていませんか。

故障かな？と思ったら

■ランプでの確認

ランプの種類	ランプのつき方と装置の状態	対処方法
POWERランプ	電源投入すると緑に点灯します。	点灯しない場合は、異常です。 電源コードや電源プラグの接続状態などを確認してください。
RUNランプ	電源投入し、初期化中は橙の点灯です。 初期化が終了すると、装置の動作モードに従って点灯または点滅します。 ●運用モードの場合、緑の点灯になります。 ●設定モードの場合、橙の点滅になります。 ●インストールモードの場合、緑の点滅になります。 ●障害発生した場合、赤の点灯になります。	どの色にも点灯しない場合または赤点灯の場合は、異常ですので、速やかに電源を落としてください。なお、お使いになりたいモードを表示していない場合は、コンソールのモード変更を確認してください。(☛P25、P41) または背面のSW1(ディップスイッチ)の状態が全てオフになっているか確認してください。(☛P15)
LINKランプ	LANの接続状態を示します。通常は緑の点灯です。	点灯しない場合は、ネットワークを確認してください。 ・LANケーブルは正しく接続されていますか？ ・ネットワーク機器の電源は入っていますか？
ACTランプ	LANの動作状態を示します。通信を行っている場合に点滅します。	通信開始しても点滅しない場合は、ネットワークを確認してください。
COLランプ	LANのコリジョン発生時に短時間の黄の点灯をします。	ネットワークの状態や設計を見直してください。

保守サービスのご案内

■保証について

保証期間（1年間）中の故障につきましては、無償で修理いたしますので「保証書」は大切に保管してください。（詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。）

■保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。

当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをおすすめしております。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	●毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	●修理に要した費用をいただきます。 （修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用・部品代をいただきます。） （故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。） ●当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要になります。

■故障の場合は

故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。

■お話し中調べは

お話し中調べは局番なしの114番へご連絡ください。

■補修用部品の保有期間について

本商品の補修用性能部品（商品の性能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後7年間保有しております。

STOP お願い

● 外線へ電話をおかけになる際に、市外局番＋市内局番＋加入者番号（03-××××-××××など）以外の電話番号および110番などの“1××”で始まる3桁の局番無しの電話番号へ発信する場合、VocaLink Ⅱ -ISDN ゲートウェイの設定によっては、相手先にかからない場合があります。これらの電話番号への通話は、VocaLinkⅡシステム以外の通常の電話を必ずご利用ください。これらの電話番号の詳細については、VocaLink Ⅱ -ISDN ゲートウェイ取扱説明書をご覧ください。

ワンポイント

● **“1××”で始まる3桁の局番無しの電話番号例**

110：警察，119：火事・救助・救急，
113：電話の故障，114：お話し中調べ，
115：電報，104：電話番号案内（有料），
117：時報（有料），106：コレクトコール・クレジット通話，100：100番通話，116：電話の新設・移転・各種サービスのお問い合わせ等，
177：天気予報（有料）など

仕様一覧

寸法	約297mm(幅)×約210mm(奥行き)×約50mm(高さ)
重量	約2kg
消費電力	最大時43W以下

ネットワーク	インタフェース	LAN
	ポート数	1
	レイヤ1, 2インタフェース	10BASE-T/100BASE-TX
電話インタフェース	インタフェース	アナログ(プッシュボタン式)
	ポート数	4 (1チャネル目はファクス通信可)
	ファクス通信モード	G3
	ファクス通信速度	14 400/12 000/9 600/ 7 200/4 800/2 400 bit/s
呼制御方式	プロトコル	TCP/IP
	手順	H.323準拠
音声リアルタイム転送方式	プロトコル	UDP/IP
	リアルタイム手順	RTP/RTCP準拠
音声制御	音声符号化則	μ-law/G.729A/G.723.1
	無音制御	あり(あり・なし設定可能) G.729B/G.723.1A準拠
	エコーキャンセラ	あり(あり・なし設定可能)G.168準拠
ファクスリアルタイム転送方式	プロトコル	TCP/IP
	リアルタイム手順	T.38準拠
設定	インタフェース	LAN/RS-232C (D-Sub9ピン)

設定記入シート

保守のための資料として、設定内容を記入し大切に保管してください。

■装置名： VocaLink Ⅱ - テレホンアダプタ　Ver____・____
製造番号________________________

■ディップスイッチの内容

設定値	初期値
SW1 OFF / ON	SW1 OFF / ON

■ネットワーク

項　目	設定値	初期値
ホスト名		TA
国番号		81
IPアドレス		192.168.1.3
デフォルトゲートウエイ		192.168.1.254
サブネットマスク		255.255.255.0
発信用TCPポート番号		50000
UDPポート番号		51000

■音声

項　目		設定値	初期値
パケット化サイズ	G.729A		10ms
	G.723.1		30ms
	μ-law		30ms
音声受信バッファ	最大蓄積パケット数		16
	受信蓄積パケット数		2
	許容蓄積パケット数		10
	タイマ値		10
RTCP　SDES送信間隔（秒）			5
AEC　ON/OFF			ON
無音制御ON/OFF			OFF

設定記入シート

■GK設定

項目		設定値	初期値
GK有効／無効	代表		無効（チェックなし）
	チャネル1～4		無効（チェックなし）
LAN電話番号をGKから取得　ON/OFF			OFF
GK　IPアドレス			192.168.1.4
GK登録用UDPポート番号			1719
チャネル1	①LAN電話番号		2001
	②着信ポート番号		50200
チャネル2	①LAN電話番号		2002
	②着信ポート番号		50202
チャネル3	①LAN電話番号		2003
	②着信ポート番号		50204
チャネル4	①LAN電話番号		2004
	②着信ポート番号		50206
代表	①LAN電話番号		2000

■メンテナンス

項目	設定値	初期値
パスワード		SYSTEM
メンテナンス用TCPポート		50300

■FAX関連

項目	設定値	初期値
制御データ用パケット化サイズ（ms）		200
画データ用パケット化サイズ（ms）		100
受信バッファリング時間（ms）		110
出力ゲイン（dB）		−7

■その他 1

	項　目	設定値	初期値
タイムアウト時間(秒)	ＴＣＰハンドシェーク		30
	RTP/RTCP受信待ち		30
RASタイムアウト	RCF待ち		3
	UCF待ち		3
	ACF待ち		3
	BCF待ち		3
	DCF待ち		3
RASメッセージ リトライ回数	RCF待ち		2
	UCF待ち		1
	ACF待ち		2
	BCF待ち		2
	DCF待ち		2
キャッチホン ON/OFF	チャネル1		OFF
	チャネル2		OFF
	チャネル3		OFF
	チャネル4		OFF

■その他 2

項　目			設定値	初期値
桁間タイムアウト（秒）				4
桁数設定				あり
LAN電話番号	桁数指定	0で始まる番号		32
		1で始まる番号		4
		2で始まる番号		4
		3で始まる番号		4
		4で始まる番号		4
		5で始まる番号		4
		6で始まる番号		4
		7で始まる番号		4
		8で始まる番号		4
		9で始まる番号		4
#ダイヤル				あり
DSPボリューム	調整値(dBm)			0

索引

数字

アルファベット

あ行

か行

さ行

索引